

# 次期岩手県環境基本計画の骨子(案)

## はじめに

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の役割
- 3 計画の期間

## 第1章 総論

※詳細は「資料1」

### 1 現状と課題

- (1) 環境・経済・社会の複合的課題
  - ・人口減少がもたらす様々な地域課題
  - ・震災の経験を踏まえたエネルギー対策と防災
  - ・世界的な資源リスクを見据えた対応の必要性
- (2) 気候変動
  - ・持続可能な開発目標(SDGs)における環境問題
  - ・気候変動は最も重要な環境問題
  - ・IPCC各種報告書による将来予測
  - ・国は脱炭素を掲げるも石炭火力などの課題
  - ・本県の温室効果ガス排出量は震災後高い水準
  - ・気候変動をめぐる世界の新たな潮流
  - ・低炭素から最終到達点としての脱炭素へ
- (3) 資源循環
  - ・世界的な資源需要拡大による廃棄物の増加
  - ・廃棄物の排出抑制や循環利用を徹底する必要
  - ・海洋プラスチックごみ問題への対応
  - ・海外需要に依存したリサイクルシステムに綻び
  - ・大量生産・消費から循環型の経済へ
- (4) 自然環境・生物多様性
  - ・近年、地球規模で生物多様性の損失が継続
  - ・このままでは多様性の劇的な損失と広範な生態系サービスの低下が生じるおそれ
  - ・本県は優れた自然環境に恵まれているが、開発、手入れ不足、地球温暖化により、多様性に危機
  - ・生物多様性の保全と持続可能な利用を推進
- (5) 環境リスク
  - ・大気、水等の汚染防止は環境行政の出発点
  - ・本県の大気・水環境は環境基準を概ね達成
  - ・一度公害が発生すれば回復に長い年月を要する
  - ・北上川清流化の歴史を記憶にとどめ、着実に取り組むことが必要
- (6) 持続可能な社会づくりの担い手育成と協働
  - ・環境問題は人間の社会経済活動と密接に関係
  - ・自分自身が環境問題の原因であり被害者になる
  - ・日々の暮らしを通じて環境に関わっている自分自身が自ら動き出すことが必要
  - ・持続可能な開発のための教育(ESD)やSDGsを踏まえ、本県の「環境学習」を深化させる必要

## 第1章 総論(つづき)

### 2 今後の環境施策の展開の基本的な方向

- (1) **環境・経済・社会の一体的な向上**  
本県の課題は、環境・経済・社会の各側面で密接に関係しており、環境施策を通じて経済社会課題を解決する横断的取組が必要
- (2) **環境を通じた「持続可能な開発目標」(SDGs)の達成**  
SDGsは、環境・経済・社会の課題をバランスが取れ、一体的に解決することを目指すものであり、本計画が目指す方向と同じ
- (3) **「温室効果ガス排出量の2050年実質ゼロ」を目指した取組の推進**  
気候変動対策は他のSDGsの達成を左右する最重要課題。温室効果ガス排出量の2050年実質ゼロにより持続可能な社会の実現に寄与

### 3 本県の環境施策が目指す将来像と施策体系

- (1) 本県の環境施策が目指す将来像 **多様で優れた環境と共生する脱炭素で持続可能ないわて**  
「多様で優れた環境と共生する」…多様で優れた環境を守り、地域資源として活用しながら、環境保全と暮らしを両立させ、「脱炭素で」…気候変動による甚大なリスクを回避・軽減するため、温室効果ガス排出量を2050年までに実質ゼロを目指し、「持続可能ないわて」…多様な主体によるパートナーシップのもと、環境・経済・社会の一体的な向上に向けた取組を実践し行動する。この将来像を目指すべき姿(ゴール)として掲げ、そこに至る道筋として、2030年までに取り組む施策の方向を定める。
- (2) 施策体系
  - 環境・経済・社会の一体的向上に向けた横断的施策
  - 環境分野別施策

## 第2章 環境・経済・社会の一体的向上に向けた横断的施策

※詳細は「資料2」

### ■ 環境・経済・社会を一体的に向上させるための横断的施策

環境



経済、農林水産業、観光、金融、科学技術、まちづくり、快適な生活環境、歴史文化、防災・減災、住まい、健康、働き方改革、移住・定住

- 1 環境負荷の低減と地域経済の好循環
  - (1) グリーンな経済システムの構築
  - (2) 自然共生型産業の振興
  - (3) 都市と農山漁村の連携・交流と広域的なネットワークづくり
  - (4) 豊かな環境づくりに資する科学技術の振興
- 2 自然と共生した持続可能な県土づくり
  - (1) 快適で魅力あるまちづくりの推進
  - (2) 自然と調和した歴史的文化的環境の保全と活用
  - (3) 環境インフラやグリーンインフラ等を活用した防災・減災
- 3 環境にやさしく健康で心豊かな暮らしの実現
  - (1) 環境にやさしく質の高い生活の推進
  - (2) 森・里・川・海とつながるライフスタイルの充実

## 第3章 環境分野別施策

※詳細は「資料3」

### ■ 本県の環境の保全及び創造を支える基本的施策であると同時に、環境・経済・社会の一体的向上を環境面から実現する基盤となる施策

- 1 気候変動対策
  - (1) 温室効果ガス排出削減対策の推進
  - (2) 再生可能エネルギーの導入促進
  - (3) 適切な森林整備等の取組による森林吸収源対策
- 2 循環型地域社会の形成
  - (1) 廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用の推進
  - (2) 災害に強く持続可能な廃棄物処理体制の構築
  - (3) 廃棄物の適正処理の推進

- 3 生物多様性の保全・自然との共生
  - (1) 生物多様性の保全
  - (2) 自然とのふれあいの促進
  - (3) 森林、農地、海岸の環境保全機能の向上

- 4 環境リスクの管理  
大気・水・土壌・地盤環境の保全、騒音・振動・悪臭対策、化学物質の環境リスク対策の推進、放射性物質による影響の把握等、環境影響評価制度の適切な運用

- 5 持続可能な社会づくりの担い手の育成と協働活動の推進
  - (1) 持続可能な社会づくりに向けた環境学習の推進
  - (2) 環境に配慮した行動・協働の推進

## 第4章 計画の推進

- 1 計画の推進
- 2 進行管理
- 3 指標の設定

※詳細は「資料4」